

「ご飯1杯50〜60円は高いだろうか？」

薄井吉勝（農家・福島県須賀川市）

超高級米が原発事故ですつ飛んだ

私の父は「薄井流疎植水中栽培」を提唱し、長年にわたってイネの潜在的な力を120%発揮させる栽培法を追究してきました。40年前に私が就農し、栽培と営業を担当してからは、全国のイベント、物産展、商談会などに出かけ、銀座の百貨店や西麻布の高級レストランなどにも、こだわりの超高級米として販売していました。出荷先は福島県内が1%で、ほとんどが東京や大阪など県外でした。しかし2011年、東日本大震災と原発事故によりすべてがすつ飛び、全量が一般業者販売となりました。

事故後5年を経て出展した東京での商談会では、「福島県、もう出展して大丈夫なの？」「なにかあったら誰が責任をとるの？」と心ないことをいわれたりもしました。やっと元の雰囲気に戻れたのは事故後10年を経



手に持っているのはイネの苗。ポット育苗という様式で、普通より大きい苗に育てる。米の直接販売歴は40年。イネ14ha、リンゴ1.5haを本人、父、息子の3人で経営（V）

◆ 薄井流疎植水中栽培 薄井勝利さん提唱のイネ栽培法。出穂40日前まで深く水をため、茎が太くて穂が大きい健康なイネを育てる。p88の写真も参照。

わが家の10a当たりの経費（概算）

・水田の固定資産税や地域の農事組合費、水利組合費、共済掛金など機械や建屋の減価償却費	2万5000円
・肥料や農薬（除草）、床土などの購入代金	1万5000円
・作業機械の部品代金、修繕費、農具・資材代、燃料代など	1万円
・人件費（時給1000円として、約10時間を水田に費やす）	1万円
・作業服や長靴、手袋などの購入代金、休憩時の飲食物の購入代金、商談会や営業時の旅費（交通費、ホテル代金、飲食代金）、その他	2万円
合 計	8万円

てからで、この3年ほどは個人やレストランへの直接販売も約10%ほどになっています。

ご飯1杯25円は安すぎた

業者向けとはいえ、特別なこだわり米です。取引前には来園して視察するのを必須とし、当園の栽培方法

などをよく理解した業者のみに販売しています。24年産でもJAや一般の集荷業者より約30%以上高い販売価格でした（税抜60kg2万8000円〜）。25年産も同様。当園の生産経費は10a当たり約8万円（人件費含む）。内訳は上の表のとおりです。

さて、私が考える米の適正価格は、農家の販売価格で玄米1俵60kg⇔2万5000円です。標準的な慣行栽培米を平場で栽培し、福島県の地元JAに販売した場合で、このくらいが適正と考えます。わが家の米はさらにこだわり分を上乗せした価格です。

私は昔からお客さんに「ご飯茶碗1杯で何円になる？」と質問してきました。すると多くの人が「50〜100円くらいかな？」と答えます。最近の価格高騰より前は「ふつうの米は1杯25円ですよ」と話していた、「えっ!?そんなに安い米を食べてるんだ」と驚かれたものです。近頃はニュース報道でやっと1杯何円かが話題になっていますが、本当にご飯は安価でおいしく満腹感もカロリーもある食べ物だと思います。

お客さんの感覚でもある、ご飯1杯50〜60円（1kgで16杯として、5kg4000〜4800円）は、かなりの射た価格だと思っています。今、価格高騰前の5kg2000円（お茶碗1杯約25円）が2倍になって

お米についての 歴史年表

原案Ⅱたにりり 作成Ⅱ編集部

米は、これまでずっと国を揺るがす存在だった。人民はときには生死を懸けて米を求めたし、為政者は豊凶・需給ギャップに常に悩んだ。米政策をどうするか、米価の安定をどう図るかが、日本の歴史を通じて政治の最大課題であったし、これからもきつとそうだ。
——そんなことが見えてくる年表です。

それぞれの出来事や制度に関して、詳しくはp36をご覧ください。



江戸時代	明治	大正	昭和	年
1582	1833	1914	1933	出来事・制度
1603	1837	1918	1934	太閤検地（〜1598） 石高制の確立へ
1642	1867	1920	1937	江戸幕府始まる
1716	1873	1921	1941	寛永の大飢饉 米価高騰、百姓一揆頻発
1730	1878	1922	1942	享保の改革（〜1745） 米將軍・徳川吉宗が財源確保のために低米価対策
1732	1883	1923	1943	堂島米会所を公認
1782	1889	1924	1944	享保の大飢饉
1787	1890	1925	1945	天明の大飢饉（〜1788） 近世最大の飢饉（浅間山噴火、東北で餓死者、全国で打ちこわし、米価高騰） 寛政の改革（〜1793） 松平定信が備蓄強化
	1892	1926	1946	天保の大飢饉（〜1839） 東北の被害大 大塩平八郎の乱
	1893	1927	1947	大政奉還
	1894	1928	1948	地租改正
	1895	1929	1949	大凶作で輸入（29万t） これをきっかけに輸入国へ
	1896	1930	1950	東北地方の大凶作 やませで冷害
	1897	1931	1951	日露戦争
	1898	1932	1952	東北地方の大凶作
	1899	1933	1953	天明・天保の大飢饉以来の大規模凶作
	1900	1934	1954	第1次世界大戦
	1901	1935	1955	富山の米騒動（越中女一揆）
	1902	1936	1956	産米増殖計画（〜1934） 朝鮮半島の米増収事業
	1903	1937	1957	米穀法 国が米の売買を管理する制度
	1904	1938	1958	米穀統制法 統制強化
	1905	1939	1959	昭和9年凶作・東北冷害（〜1935）
	1906	1940	1960	日中戦争
	1907	1941	1961	第2次世界大戦（〜1945）
	1908	1942	1962	食糧管理法（食管法）

1600年代
新田開発が盛ん

1878～88年
米を輸出 欧州へ
毎年約5万t

1942～49年
配給制度、闇米横行

1920年代
小作争議が激化

江戸時代（1603～1868）
生産拡大、繰り返す豊凶とたびたびの飢饉のなかで、幕府は米価安定を目指した
米は税金であり、政治・経済の根幹をなす存在だった。幕府は新田開発を進めて生産拡大。財源の確保に努めたが、冷害や洪水などでの度重なる飢饉にも苦しんだ。凶作に備えた備蓄推進や先物取引公認など、米を統制したり市場まかせにしたりと揺れ動きながらも、幕府は米価安定を目指した。

明治～終戦（1868～1945）
米輸出から輸入国へ、米騒動も頻発、植民地に頼った

水田面積拡大、高収量品種登場などで、生産力が向上した。明治前期、米は欧州への輸出の花形品目となって外貨獲得に資した。しかしその後、冷害や水害などの凶作、人口増加などから国内消費用の米が足りなくなり、米騒動も頻発。台湾や朝鮮半島から米を輸入した。
大正から昭和初期は植民地での米生産拡大に力を入れた。豊作と安価な輸入米で農村が疲弊。国家が米の売買を管理する米穀法を制定。1942年、戦時体制下で制定された食糧管理法につながった。

終戦～高度経済成長期
（1945～1970年代）

食糧難からの脱却と自作農の誕生、悲願の自給達成、そして過剰米

終戦直後は深刻な食糧難で、高額な闇米が公然と横行した。農地改革で地主制が解体され、多くの自作農が誕生すると、農村は活気にあふれ、復興と増産が急速に進んだ。

1961年の農業基本法では、農業の近代化（機械化・規模拡大など）や食管制度による価格支持で農家の所得向上を目指し、生産量も増大。67年には日本は約70年ぶりに悲願の米自給を達成できた。だが高度経済成長期の食生活の



プレイバック

「令和の米騒動」



スーパーの店頭米価は、2024年の初めからすでにじわじわと上昇を始めていた。値上がりが加速したのが7月。そこへ、8月8日に宮崎県沖の日向灘で発生したマグニチュード7・1の地震が追い打ちをかけた。直後に、気象庁が南海トラフ地震に対する注意を喚起したことなどから、スーパー店頭の米が品薄となり「令和の米騒動」が始まった。

その後の経緯を振り返ってみよう。

南海トラフ情報で米が品薄に

2024年

7月30日 農水省が、農協や卸売業者などが保有する主食用米の6月末時点民間在庫が過去最低になったことを発表。

8月 8月8日に起きた日向灘の地震後、気象庁が南海トラフ地震臨時情報を発表。同時期に台風もあったことから、スーパーでの米の購買量が前年の約1・5倍まで増加。品薄状況が起きた。

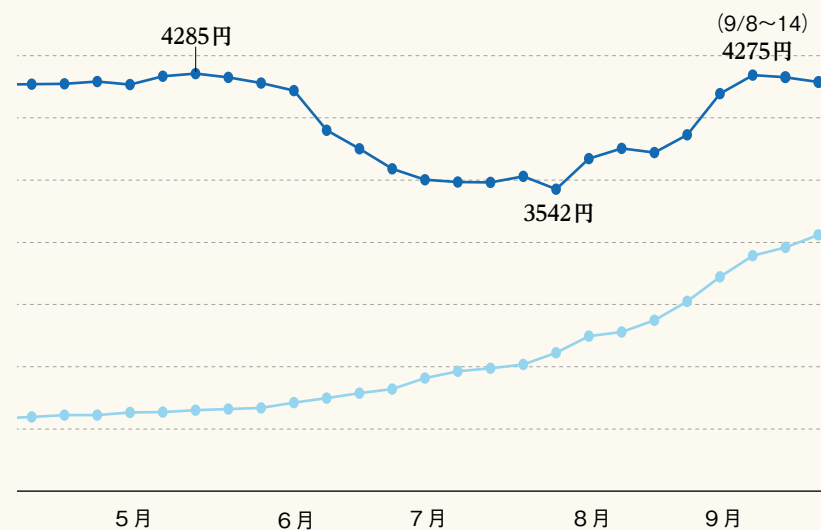
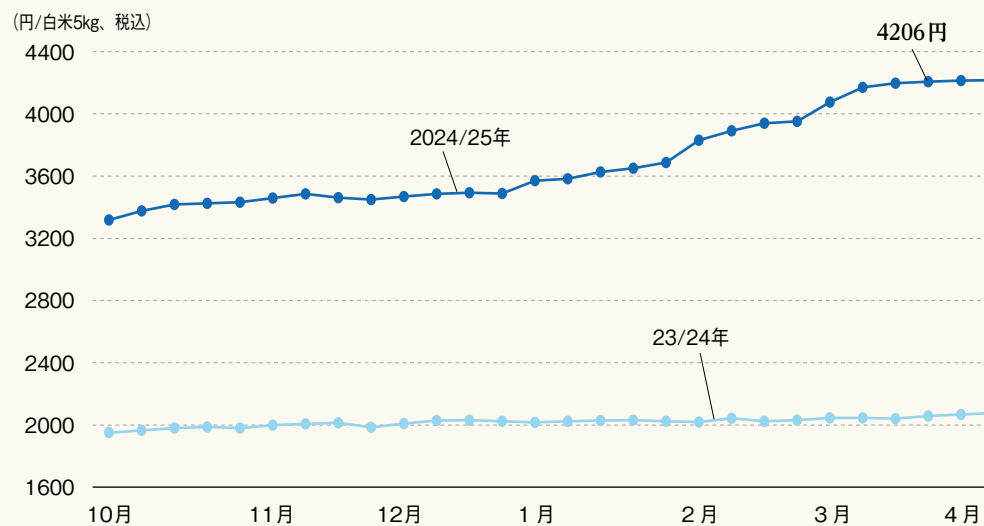
12月20日 総務省公表の消費者物価指数で米類は前年同月より64%高。新米が出回れば価格が落ち着くと言っていた農水省の見立てが外れた。

備蓄米放出へ

2025年

1月24日 江藤拓農水相が備蓄米放出の新制度創出を発表。凶作時しか放出しないとしていた従来の運用方針を見直し。

スーパーでの米販売価格の推移



全国約1000店舗のスーパーPOSデータによる

出典：農水省

イネを育てる現場より

茨城県龍ヶ崎市・横田農場にて撮影

写真 依田賢吾

田植え

イネが田んぼで育つ期間は、品種や栽培法によるが4カ月前後。その始まりの作業

茎数調査

田植えした苗は、茎を増やしながら生長する。イネの生育度合いは草丈、葉色（緑の濃淡）、そして1株の茎の数で判断できる。追肥の量や時期の調整に役立つ

幼穂長を見る

穂が出る20日ほど前、茎の中にでき始めた幼穂の長さを調べる



幼穂

育苗

田植えをする苗を育てること。育苗期間も栽培法によって長短がある。これは「稚苗」といって期間が短く、15～20日ほど

ご飯1杯の値段 高い？ 安い？

米価が急落して農家が苦境に陥った
2015年、ご飯は1杯17円だった。
令和の米騒動で高騰した
2025年は、ご飯1杯54円。
急激に値上がりしたのは確かだが、
この値段、他の食品と比較してみた。

2015年 17円
↓
2025年 54円



米1kgで ご飯16杯分
(ご飯1杯分の米は62.5g)

スーパーの5kg価格が2015年1380円、
2025年4285円として計算



1杯分の米は
1/2合弱

* 2015年と2025年の比較では、値上がりしたのは米だけでない。ペットボトル茶1本140円→159円、アイスクリームは1個256円→351円、やきそばは1個160円→231円、ドーナツは1個130円→172円に価格改定したものとして、「17円だと（2015年）」「54円だと（2025年）」の数値を算出した。

17円って
どのくらい？

54円って
どのくらい？

ご飯1杯54円は、
果たして「高い」だろうか……？



ペットボトルのお茶
17円だと1/8本
54円だと1/3本*

17円分

54円分

アイスは
一口分か
二口分だね！



54円分

17円分

アイスクリームは
17円だと7g
54円だと16.9g



54円分

17円分

即席やきそばは
17円だと19g
54円だと41.8g



54円分

17円分

ドーナツは
17円だと9g
54円だと21.6g